

■ 木曾山崎団地地区まちづくり連絡協議会議 委員の意見**1. 木曾山崎団地地区のまちづくりについて****(まちづくりの方向性について)**

- ・ 高齢者が生きがいを感じながら、生活してゆけるシステム作り
- ・ 高齢者の住むまちから若者の住むまちへ
- ・ 21 世紀の福祉先進都市を目指す
- ・ 世代を越えた対話があり、活気にあふれた町、地域は広いが昔の下町の様な雰囲気漂う地域
- ・ 若い世代と高齢者の交流がまちづくりには絶対に必要
- ・ 子供や高齢者が安心して住みつけ、かつ安全な社会生活を行えるまちづくり
- ・ 団地以外のさまざまな人が集まるまちづくりを行い、地区の活性化を図る
- ・ まちづくりと団地の建替えを同時期に進め、若い人にも住みやすいまちづくりを進める。

(まちづくりの方向性を実現するための施策)

- ・ 高齢者のボランティア活動を支援する。多彩なボランティア活動を行政が支援してゆくユニークな組織作りを期待する。
- ・ 本地区の特徴を、対外的にアピールすることが必要である。
- ・ 若者を呼び込むために、団地施設自体に課題がある場合は、UR と公社の協力なくして実現は困難であり、UR と公社との協議と話し合いを積極的に行なう必要がある。
- ・ 女性を家庭から引き出すような施策がないか。

(まちづくりの方向性を実現するための必要な機能)

- ・ 福祉・医療・健康などの大規模な総合施設。大規模な総合施設により、いろいろな要望が 1 ヶ所で実現出来るようになる。
- ・ バスの運行・形態は、高齢者にやさしいことを優先事項とする。
- ・ 歩道の随所に、休憩所を設ける。
- ・ 病院・介護センターを建設し、北欧なみの最先端システム導入を指導する。
- ・ 福祉に関わる企業には税の優遇策を推進し、積極的に誘致する。
- ・ 福祉という名目で空き部屋の補充においては、若者に対して助成する。
- ・ 建物の老朽化、住環境整備等の遅れが若い世代の団地離れの要因となっている可能性があるため、入居者のニーズに対応出来る住宅が必要。
- ・ 団地の中で様々な交流がうまれる場が必要。
- ・ 団地に地震、緊急の際に必要な備品、備蓄品を保管出来る場所（防災倉庫）がない、団地内に何ヶ所か必要である。
- ・ ペットと一緒に暮らすために、ペット可能な棟を設定。公園にペット同伴可能エリアを定めるなど、散歩に行く機会を多くする。
- ・ 高齢者が憩える場所。
- ・ 子供が下校後安全な活動を行える場所。
- ・ 医療施設（機関）、文化施設、防災拠点の確保。
- ・ 団地内に賑いのある商店街を再生する。
- ・ 団地の外周道路をランニング、ウォーキングしている人々のため、安全で快適な道路の整備。
- ・ 跡地に私立学校の誘致をするのも一つの考え。周辺に若い人向けの商業が集まる可能性がある。

2. 木曾山崎団地地区内の学校跡地活用について

(学校跡地活用について)

- ・ 総合的コミュニティーセンター的なもの。たとえば、ケアハウス、保育園、各種教室開催、社員教育用会議室等が一箇所に集まった施設。
- ・ 必ず体育館を作ってください。また運動場については誰でも使用出来るようにしてください。
- ・ 子供たちの体力向上、高齢者の親睦、軽体操、団体サークルの技能向上、勉学等のために学校跡地の利用。
- ・ 健康維持増進のためのスポーツ施設（トレーニング器を完備した幅広いスポーツが楽しめる施設）、多世代が交流し活動できる場としての、コミュニティーセンター（子育て支援センター、児童館、生涯学習など充実した施設）、病院、高齢者介護福祉センター（充実した医療施設、デイケア、ショートステイ、グループホームなど介護の充実した施設）などを網羅した大規模な総合施設。
- ・ 老人アパートの建設。1階には病院、介護センター、給食センター、コミュニティー室を設け、2階には介護が必要な人が入り、3階以上の階には、入居時に一時金として大金を支払わなくてもいい、家賃制度の老人アパートを作って欲しい。一人暮らしの人や、高齢者が移り住み、団地に空き室ができ、若い世代に購入を促すことができる。結果的に居住者の新旧の入れ替えができ、活性化と共に商店街も繁盛できる。
- ・ 建替え計画の一案として、学校跡地と団地の敷地の交換による建替えの種地にする。
- ・ 学校の跡地は安心な遊ぶ場所、地域住民の様々な活動に利用できる施設が望ましい。
- ・ 交流やカルチャースクールのための場所
- ・ スポーツをおこなうための場所
- ・ 小動物園
- ・ 小・中学生が自由に遊べる広場として、特定なグラウンドではない（野球場、サッカー場、その他特定な設備のない）場所。幼児と小・中学生のトラブルの減少のため幼児のみが遊べる場所が必要。

3. その他

- ・ 横浜市の磯子区氷取沢町の学校跡地の特養ホームは、地域ケアプラザの併設された施設であり、実例としては参考になる。
- ・ 今回の連絡協議会のメンバーは高齢者で構成されているが、もう少し若い方の意見も聞くべきだと思います。可能ならば、若い方達だけの評議会の設置をお願いしたい。また、教育、子育て、間取り、自然、家賃、交通、共稼ぎのできる環境 等々若い方たちの要望を聞き、より多くの若年層の流入策を探ることが必要。